

大規模地震～そのとき何ができるのか

東日本大震災(平成23年)の後も、熊本地震(平成28年)や北海道胆振東部地震(平成30年)など、大規模な地震が相次ぐ日本。近い将来、首都直下地震や南海トラフ地震など、さらに甚大な被害をもたらす地震が発生するとの予想もあります。

そのとき何が起きて、私たち一人一人に何ができるのか。発生前から避難までをたどることで、明日起きてもおかしくない大規模地震の危険に備えてください。

※これは、地震への備えについて伝えるために、市民が被災したことを想定したフィクションです。

1. 事前準備・対策



20XX年8月15日午前10時30分—。

市内在住の大和まもるさんが帰宅すると、妻ののぞみさんが懐中電灯やヘルメット、缶詰などをテーブルの上に広げていました。

まもるさんはのぞみさんと協力して「大和市防災マップ」のチェックリストを使い、道具類や生活用品、安全対策品や医薬品などがそろっているかを確認。電気や水道、ガスが止まったときに備えて、水や食料は最低でも3日分が確保できているかをチェックしました。

また、感染症対策としてマスクや体温計なども準備。排せつ物を凝固剤で固める携帯トイレはなかったため、早めに購入することにしました。

2. 地震発生

8月20日午後1時40分—。

その日、昼食を済ませたまもるさんは、リビングでお茶を飲んでいました。

そのとき—。大きな衝撃が突き上げてくるのを感じました。まもるさんはテーブルの下に潜り込み、手で頭を覆いました。激しい揺れが続きます。

やがて揺れが収まると、のぞみさんがけがをしていないか確認し、食器棚から落ちたコップなどの破片から足を守るためにスニーカーを履きました。

そして、ドアや窓を開けて逃げ道を確保し、こんろの火を消した後で、通電火災を防止するため、ブレーカーを切りました。



4ページに続きます

特集 大規模災害 — その日、あなたの命を守るために

9月1日は防災の日。それは関東大震災発生の日であり、また多くの台風が到来する時期とも重なります。近い将来の発生が予想される大規模地震や、ますます激甚化・頻発化する豪雨災害。「その日」にあなたの命を守るため、防災について考えてみませんか。

☎市役所危機管理課危機対策係 ☎(260)5728 ㊚(261)4592

土砂災害を知る

今年6月末から7月初めにかけて、活発な梅雨前線の影響により、関東地方や東海地方で長時間にわたり強い雨が降りました。そして7月3日、静岡県熱海市で大規模な土石流が発生。住宅の密集する険しい坂道を土砂が流れ下り、甚大な被害をもたらしました。これを受けて、全国的に土砂災害への不安が高まっていますが、まずは、自分が住む場所のリスクを把握することが重要です。

県内市で最も少ない 大和市の土砂災害特別警戒区域

土砂災害には「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」「土石流」「地すべり」の3種類があります。こうした現象が起きた場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがあると予想される区域は、県により土砂災害警戒区域(イエローゾーン)に指定されます。また、災害が発生すると建築物が損壊し、住民の生命または身体に著しい危害が生じる可能性があると考えられる区域は、土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に指定されます。

市内にはイエローゾーンが38区域あり、そのうち27区域にはレッドゾーンが含まれています。いずれも「急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)」での指定です。大和市は、イエローゾーンが県内市で2番目に少なく※、そしてレッドゾーンは県内市で最も少なく※なっており、土砂災害のリスクが比較的低い地域であると言えます。しかし、これらの警戒区域内にお住まいのかたは、特に十分な警戒をお願いします。

※県が指定した区域数による比較。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



斜面の地表に近い部分が雨水の浸透などで緩み、突然崩れ落ちる現象

土石流



山腹や川底の石や土砂が集中豪雨などによって、一気に下流へと押し流される現象

地すべり



斜面の一部または全部が地下水の影響と重力によって、ゆっくりと移動する現象

警戒区域内の世帯に対し個別に注意喚起

各地で大規模な災害が相次ぐ中、市はイエローゾーン、レッドゾーン内の各世帯に対して個別に注意喚起を実施。イエローゾーン内の世帯にはちらしの配付、レッドゾーン内の世帯には市危機管

理課職員の個別訪問により、各世帯が警戒区域内にあることを伝えるとともに、避難場所までの安全な経路の事前確認や土砂災害の前兆現象への注意などを呼び掛けています。